

平成26年度 第2回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成26年10月29日(水) 午後2時～午後4時50分

◇ 会 場 埼玉県立熊谷図書館集会室

◇ 出席者 (1) 出席委員
土屋かおり委員 金子貞雄委員 江田明子委員
青木淳子委員 小笠原清春委員 関口聡美委員
渡部貞一委員 若松昭子委員 高橋 博委員

(2) 図書館職員

【県立浦和図書館】

岡館長 陣内副館長 民本副館長

荻原主席司書主幹 高橋司書主幹

【県立熊谷図書館】

乙骨館長 榎本副館長 伊藤教育主幹

町田担当課長

【久喜図書館】

渡邊館長 根岸副館長 銭場教育主幹

◇ 会議次第

1 開 会 [熊谷図書館 伊藤教育主幹]

2 あいさつ 県立熊谷図書館 乙骨館長

3 委員紹介

4 平成26年度第1回会議録報告

5 会議録署名委員の指名

会長が、土屋委員と金子委員を指名し、了承された。

6 会議の公開について議決

傍聴希望者はいない旨の報告

7 議事

(1) 「図書館と県民のつどい埼玉2014」について(報告)

[浦和図書館 荻原主席司書主幹]

資料1及びチラシに基づき、開催期日、会場、記念講演会、分科会及び展示の内容等について説明

【質疑】

- 会 長／ビブリオバトルの定員１００名とは聞く方の参加者のことか。
事務局／観覧者の募集が１００名である。バトラーとして壇上で説明していただくのは高校生４～５名、中学生３～４名である。
- 会 長／バトラーは決まっているのか。
事務局／中学生についてはすでに取組を行っているさいたま市と三郷市にお願いしている。高校生については高校の大会があった関係で県教育委員会の担当課に人選をお願いしている。
- 副会長／つどいには何年か前から参加させていただいている。今年の聖学院大学の展示テーマは、「和訳聖書のことば」である。毎年、大学のお宝紹介のようなことを行ってきたが、今年は、このテーマにとらわれな
い内容となっている。自分も参加してみたいと思うので、ぜひ委員の皆さんにも見ていただきたい。
- 会 長／図書館と県民のつどいは今回で８回目と回を重ねている。この事業は図書館協会で行っていることではあるが、やりっぱなしではなく後に残すことを考えていただきたい。特に、ビブリオバトルを行うのであれば、やりとりの内容を県のホームページ等で後でも見られるような形にするとか、いろいろ考えていただいてもよいのではないか。
実際の運営に携わる方にこのような意見があることを伝えていただけるとありがたい。

(２) 県政出前講座について

〔浦和図書館 荻原主席司書主幹〕

資料２に基づき、県政出前講座「図書館なんでも活用講座」について、
講座の内容、上半期の実施実績等について説明

【質疑】

- 会 長／この事業は今年から始めたのか。
事務局／この事業は以前からあったが、昨年度から積極的にＰＲし、実績が伸びている。
- 会 長／昨年度は年間何件か。
事務局／年間７件で、参加人数は２８４名である。
- 副会長／大学の授業の中に取り入れることは可能か。
事務局／可能である。
- 副会長／どのような手続きになるか。
事務局／浦和図書館の企画担当に御連絡いただき、日程と内容を詰め、実施する。

副会長／今まで大学の授業の中で活用されたことはあるか。

事務局／大学では実績が無い。今まで、小学校では本の修理の講座とか図書館の使い方を説明する講座を行った。このときの受講対象者はPTAの方であり、授業の中での取組は無い。

副会長／大学の図書館学の授業の中では公共図書館の話を含めなければならぬので、実際の現場の方が来てくださっていろいろな課題をお話しいただくとよいのではないかなと思っている。ぜひ検討したいと思っているので、そのときはお願いしたい。

会 長／いま大学でこのような形で生かしていただいているというように、それをPRの材料として使うことができると思う。ビジネス講座もまたそのような形で使えるだろうし、少しPRの方法を工夫された方がよい。

事務局／一度参加された方が家の近くでも講座を行ってほしいと希望するなど、少しずつ広がっている雰囲気があるので、それもうまく活用したらよいと思う。

会 長／ぜひリピーターも増やすようお願いしたい。

(3) 図書館サービス評価指標見直しスケジュールについて

〔浦和図書館 高橋司書主幹〕

資料3に基づき、図書館サービス評価指標を見直すこととなった経緯、今後のスケジュール等について説明

【質疑】

委 員／現状の評価指標での評価は来年の5月頃には行わないということなのか。それとも変更するのか。

事務局／現在の指標は今の形を保ったまま少し手直しをすることとし、大きく変わるまでは存続する形になると理解している。

委 員／平成27年度と28年度は、評価指標の見直しの検討と並行して、現状の評価指標で評価することになるのか。

事務局／そうである。

会 長／平成29年を目標としているようだが、のんびりしているように感じるが、これでよいのか。また、図書館としての様々な計画との関係でスケジュールリングはなされているのか。

事務局／平成27年度には熊谷図書館・久喜図書館の2館体制に移行し、2館体制でのサービスを固めていく時期のため、検討を細かいところまで詰めるのは難しいと考えている。
少し時間をとらせていただき、じっくりと良い指標を作りたいと考え、

このようなスケジュールとなっている。

会 長／図書館としての年次計画、5カ年計画等があれば、その計画との関係はどうなっているか。

事務局／平成27年度は浦和図書館が閉館し、残りの2館での運営の体制を整える時期と考えている。このため、動けないと考えている。平成28年度になると2館でのサービスがフルにできる状態になると考えている。平成29年5月、6月は平成28年度の状況での評価を行い、平成29年度以降は新しい指標で行うということである。

会 長／平成27年2月の協議会で指標に関する意見交換を行い、平成27年5月、6月と小委員会で見直しについての協議を行うことになると思う。この段階ではまだ細かいことまでは決められない。事務局としては、小委員会に対しどのくらいまでの議論を望まれているのか。また、委員としても見直しについて協議といわれてもちょっとイメージが湧きにくいので、今日とはいわないが、整理しておいていただきたい。

会 長／本年度いっぱい浦和図書館が閉館となり、来年度は2館体制になるとのことだが、これを前提として、2館としてどういう評価をするか、まだ固まっていなくとも試行版が必要となるのではないか。これについても、事務局内部で協議願いたい。

委 員／指標を作成することに3年もかけることは自分の所属する団体からは信じられない。仮に、3館を2館にするということになれば、平成27年度当初からそうなるのだろうが、現在の段階で来年度の予算規模だとか人員配置をどうするかというスケジュールが教育委員会の中で決まっていなければおかしい。具体的な人員配置や予算規模などは年明けかもしれないが、最終的な詰めに入っているはずである。その前提として、どれくらいの利用者を見込むか、蔵書数をどの程度にするのか、新規図書購入費はいくらにするのかということは、これから細かいところを詰めることになるとしても、大枠の予算は執行部において決まっていると思う。そこまで決まっていなければ、4月1日の2館体制移行はできないと思う。それに対する予算付けや人員配置について、教育局内部には図書館行政に対する行政指標を持っているはずである。

埼玉県における図書館行政をどうするかという前提に立って、3館から2館にする、その結果、行政サービスを低下させないためにはどうするのかということが、執行部の中になければおかしいと思う。ただ単に、3館を2館にすることで済むわけではなく、図書館行政をどうするかという前提があって初めて3館を2館にするわけである。それに対する目論見なしに動くことは考えられない。とするならば、指標

を作るのに3年かけるということでは、来年度からオープンする2館が、何を、どうやって、どうするのか誰にもわからない。やってみなければわからないから、指標は3年後とする。そのような行政は存在しないと思う。確定版として、具体的な数字を出すことは別であるが、具体的な目論見がないまま、仕事をするということが理解できない。3年かけて指標を作るのであれば、逆になくてもよいのではないか。

事務局／行政的なスケジュールについては後ほど説明する。

3年が長いという話のもっともであるが、現在、指標は存在し、その指標で図書館サービスを計っている。継続してやっていくので、指標の空白期間は存在しない。ただ、なぜ見直しにこれだけの時間がかかるかということ、一つには来年度が過渡期であり、混乱するかもしれない厳しい状況にあるということである。来年度はこの件に関し集中した議論ができにくい。3年あるとはいえ、来年1年は使うのが難しい1年である。

この指標は2館体制の指標だけではなく、新図書館に向けてどんな指標がよいかということを経済的な目標としている。したがって、新図書館の状況を、これからどう進めていくかということを経済に入れてやっていく。動きのあるこの2年間をそこに費やし、委員の皆さんの意見を入れて新しい指標を作って参りたい。その間は現在の指標を手直しして、引き続き図書館サービスについて評価して参りたいというスケジュールである。

(4) その他

ア 県立浦和図書館閉館及び新県立図書館在り方検討有識者会議提言について

〔教育局市町村支援部 横松副参事〕

質疑に先立ち、新県立図書館在り方検討有識者会議座長でもあった会長から有識者会議の概要について説明があった。

会長／いろいろな分野の方にお集まりいただき、4回という限られた会議だったこともあり、提言としてまとめきれなかった部分が多かったと思っている。最初にいただいた題、テーマは日本一の図書館である。この日本一の図書館とはどういうものかということを経済するとしたら、この図書館があるから埼玉県に住みたい、本社機能を持ってきたいというようなところが、結果として日本一の図書館に結びつくのではないかとさせていただいた。

お集まりいただいた委員の皆さんとは、ベシクなどころでは意見が一致していたかなと思う。それは、今までやってきたもの、特に市町村、高校等を含めたネットワークについては、きちんと継続していかなければならないし、これがベースになっているとの認識をいただいていることがまず一つ、また、電子化の議題はもちろんあったが、それと同時に、今まで集めてきた活字資料の有効活用は、県立だけではなくて、市町村、高校、大学を含めた県内の資料をきちんとどういうふうにしていくのかということ、保存、アーカイブというものをきちんと考えていく必要があるということ。さらには、人の問題、司書という図書館に携わる職員の存在が大きい、トータルで見ると非常に自己評価を含めて評価が低い。自信を持ってこれだけのことをやっているということ、これを宣伝する必要がある。職員には企画力とか発信力というものをもっと持ってほしいという形で意見がまとまってきた。

熊谷にできるだろう産業支援施設との併設ということが、明確な前提条件とはならなかった。このため、報告自体が中途半端な形になっているが、産業支援というものをどういうふうを考えていくのかということは一つ大きな課題であり、有意義な意見交換ができたと思う。

また、電子化というものも避けられない問題なので、いろいろなアイデアを出していただいた。あと大きいものは、高校、公共図書館、大学からも出たが、ネットワークの充実ということがあげられる。

この提言を受けて、県立図書館、あるいは県庁の中で、新図書館の基本構想、基本計画が練られていくと思うので、そこで十分参考にさせていただきたい。

教育長には、ユーザーである若い人たち、高校生や大学生たち、実際に現場で働いている司書たちの意見を十分聞いていただきたい旨をお願いした。

【質疑】

委員／熊谷図書館と久喜図書館は存続してやっていくとの話があったが、耐震性の面で久喜図書館はIS値0.40と、いつ壊れてもおかしくない状態であるが、これに対する耐震工事は終わっているのか。

事務局／この後説明する。

<ここで久喜図書館の耐震改修工事について説明>

[久喜図書館 銭場教育主幹]

【質疑】

- 会長／論点は3つある。まず一つが来年の4月1日から浦和図書館が廃館になること。それに伴う利用者説明会を今月3回にわたり行ったこと。そして、廃館と並行して久喜図書館が熊谷を含めた2館体制に移行できるように耐震改修工事が11月から来年の6月まで行われること。その間の休館が3月中旬から5月中旬までとなる。熊谷、久喜の2館体制に4月以降なるが、それを含めた将来的な新図書館の構想に向けて有識者会議が開かれて、そこで提言を出ささせていただいた。これらを含めて、どこからでも結構なので御質問御意見をお願いしたい。
- 副会長／新しい図書館の建設とは、時期とか場所とか決まっていらないのか。場所は決定ではないけれども、今のところこのあたりかなということが出ているが、時期的にはいつ頃になるのか。
- 副参事／場所については知事が議会や記者会見で北部地域の振興も含めて熊谷に置くのがふさわしいと表現されているが、まだ決まったわけではない。熊谷がいいのではないかという考えがある。時期については予算の関係があるので、基本設計をいつ予算要求するかできまる。金額が数億単位ではなく、数十億以上の金額になることが予想されるので、慎重に進めなければならないということもあり、いつ予算化されるかはまだ未定である。
- 副会長／浦和が閉館になり、当面は2館体制ということだが、その当面とはどのくらいの期間か。それは、新図書館ができるまでということか。新図書館ができて1館体制になるというのもまだはっきりとしたわけではない。新図書館ができてもお存続できるようなのであれば、しばらくは残すということなのか。当面という時期もはっきりしないし、どういう形での当面なのか、具体的にわかるところまでお聞きしたい。
- 副参事／熊谷は耐震性がある。久喜については耐震改修をするので、基本的に3年、5年というレベルで使えなくなることはない。建物については、熊谷、久喜ともかなり長い期間使える。県教育委員会としては1館体制、すなわちワンストップの体制でできるだけ早く新しい図書館を作りたいと考えている。ワンストップ化ができたときに、熊谷と久喜をどうするかということがあらためて議論になる。たとえば、廃館にするのか、ほかに利用するのか、市の方に移管するのか、いろいろな選択肢があると思う。それについては未定である。一館体制について、もし基本設計が予算化されると建築に足かけ約3年くらいかかるので、

予算化されてから、4年ないし5年かかるというイメージである。

副会長／結局何もわからないというのが今の現状ですね。ものすごいお金がかかるから、そんなに簡単に計画は立てられないし、動き出したばかりということなのだろうけど、実際に今年度浦和は閉館になる。動き出したばかりであるにもかかわらず、かなり大きな変化が直前に迫っていることだと思う。

先ほどサービス評価の指標を見直すということもあって、たまたま今年度サービス評価小委員会の委員長をさせていただき、引き続き担当するかどうかわからないが、そのときに移行期間なので指標はとりあえず今のものを来年、再来年は使っていこうという前提だったと思う。27年は一応現行のサービス評価指標で評価しつつ、さらに見直しについても協議するという、二つのものを同時にやっていくということになっていたが、新しい図書館体制がどこでどんなふうになっていって、新図書館というものがいつできるのか、全くわからない。新しい図書館に向けての見直し評価なのか、それとも2館体制での当面の見直し評価なのか、このへんがはっきりしないので、先ほど3年ほどかけて見直しするのは長すぎないのかというお話が出たと思うが、実質27年の5月と6月に協議するとしても、何となく何をどのように決めるのか、決めかねるのではないのかなという印象を持っている。どのあたりで一番具体的なイメージが描けるのか、こんな感じになるんだ、というのが、実際にはまだ何も決まらない段階ではあるのだが、いつごろを予想して見直しを協議してみようという、その時期がわかればありがたい気がする。

副参事／例え話だが、現在は用意の段階でしばらく待たされている状況である。ドンといえば走り始めるので、100メートル先までどのくらいかかるかよくわかるのだが、まだ用意の段階なので、ドンの音が鳴るのがいつか、ということもまだはっきりしない。こちらとしても準備をしっかり整えていこうということで、この提言についても、もし新図書館ができるのであればこんな機能が必要である、こういうことがあるといい、というお話をまとめていきたいと考えているところである。

委員／ドンがなっていないという割には浦和の閉館は決まっているわけですね。

副参事／その通りである。浦和については新図書館の話があって閉館が決まったのではなく、耐震がないので耐震工事をやるのかやらないのかという議論である。新図書館があるのに余分なお金を使うわけにはいかないということで、本当は久喜も廃止という話があったが、さすがに1館では無理だということで久喜の改修ということになった。浦和については細かい積算はしていないが、耐震だけでも数千万円、エレベ-

ターもないし、雨漏りが激しいので、もし浦和でやるとすれば、久喜では工事費に2億円かかるが、浦和はとうていそのお金では済まないというレベルであり、やむを得ずということである。

会 長／これは非常に説明しにくいと思うのだが、先ほどの指標の見直しのスケジュールをはみ出すところで、果たしてできているだろうかという感じがする。たとえば来年度予算化はまずないだろう。この時期きちんとまとまって出てこないとか来年度、設計していいよというお金は付かない可能性が高い。

副参事／いいえ、設計の予算の準備は行っている。それは昨年度も一昨年度も行っていた。要するにドンが鳴るかどうかがである。

会 長／設計やる前に構想とか基本計画とかはどうなっていたのか。

副参事／有識者会議をやる前は、ライフチャンスライブラリーの基本計画があり、その計画で詳細な設計は事務レベルでは持っている。

会 長／それを出してくる形なのか。

副参事／仮に出すにしても有識者会議を受けてかなり変えないといけないと思っている。

会 長／ではうまくいって30年度か31年度かに新図書館ができると考えていいか。もっとも、ドンの音が鳴ってからのことですよね。ここで浦和は廃館する。ただし、廃館してその先の見通しはなかなか立たないというところで、いろいろ不安が出てくると、浦和図書館がよみがえってくるということはあるのか。

副参事／今の図書館は使えないので、浦和図書館の跡地利用としては白紙の状態である。可能性としては他の文化施設とか単なる広場となるのか、もう一回図書館を作ろうという話が出ないことはないと思う。ただ、現在、そのような話は一切ない。

会 長／利用者説明会でいろいろな話をして意見を頂戴するというのは、たぶん初めてのことだと思う。それを受けてこれから周りがどのように動くかということもあるので、まだ何ともいえない話である。そうすると有識者会議は会議としてこのような提言を出させていただいた。ただ実際にできるのは10年後とかわからないということになるとあまり使えなくなってしまう可能性もあるね。

会 長／久喜図書館の耐震工事はやるということが決定事項で、一定期間が工事にかかり休館となる。将来的には何ともいえないところもあるが、今のところ浦和図書館が閉館・廃館となって4月1日からは浦和図書館がないという状態というところはわかっている。

会 長／協議会としては指標の見直しのところにもっといろいろと意見を出さないといけないところかなと思うわけだが、皆さんどうでしょう。

委員／それについては、現状と課題の資料としてみる限り、9月の教育委員会としては、久喜図書館についてはあと30年使いましようと言っているのと同じである。ここで耐震工事に入るわけだから。ところが、浦和図書館については耐震工事に入らないということは、これは間違いなくつぶそうということは確定である。ただ跡地をどうするかはわからない。跡地利用を含めて施設をどうするかわからない中で指標を議論しても意味がないと思う。建物的にどうするかわからなくては、そこに全図書を集約するのか、あるいは久喜を支所として残して、そこに一定程度のものを残すのかによっては利用の仕方が全く変わってきてしまう。

今埼玉県内の公共施設で耐震工事が終わっていないのはここに挙げたものと埼玉会館だけである。あとのものはすべて耐震工事が終わっている。それは暗黙の意思表示があるという前提でしかいえない。

委員／新図書館ができることは絶対なのか。

副参事／予算が通らない限りできない。

委員／浦和の閉館は絶対である。

副参事／12月の議会で条例改正が決まれば閉館である。

委員／新図書館ができるかわからない状態で、2館になってしまうということですね。

副参事／正確に事実を重ねていくとそういうことになる。教育委員会として1館構想はある意味悲願である。何が何でも図書館は建てたい。

委員／浦和の耐震構造がだめなことは前々からわかっていたはずではないか。

副参事／おっしゃるとおりであり、動きはもっと早く、平成14年の川越図書館閉館時から中央図書館構想があり、もう12年以上の悲願である。

副会長／サービス評価指標を立てるときに、どのようなサービスを行うかまずわからないと評価指標は立てられない。そのとき、どのようなシステムがあり、どのようなサービスができるかがないと、サービスをやろうかということ自体が立てられない。2館体制になって、建物がどういうものになるのか、実際の仕様がどのようなものになるのか、仮に27年度に見直しについて協議を始め、その目標を2館体制のサービスを前提として見直しをするというのはとりあえずよいと思う。長いスパンでの2館体制を前提にしてサービスを行う、そこまではいいと思う。2館体制がまだ具体的に見えてこないところで、平成27年度は移行期なので、現状のサービスというものが考えられないところで、見直しの指標というものは立たないと思う。この辺の見直しスケジュールのポイントというか、どのような内容の部分で見直すか、もうちょっと具体的なものがわかると評価委員会も動けると思う。

事務局／現在のサービス評価指標は作られてから数年たっている。今の県立図書館のサービスを評価する上で果たしてどうなのかという疑問点がベースにある。たとえば、貸し出しという数字を指標の一部にでも使う形が県立図書館の指標としてどうなのか。県立図書館の現在のサービスを見直す中で15項目もある指標は数の上でも中身的にもどうかということで見直しを考えていたところである。その中で2館体制ということが現実味を帯びてくる中で、3館ではなく2館で通用することと県立図書館のサービスはどういう形がよいかということとあわせて見直しができないかということから始めたところである。いま、どういう指標としたらよいのか提示していないことは、申し訳なく思う。

2月の協議会の時に他県のサービス指標と現在の県立図書館の指標を見ていただきながら具体的に議論をお願いできればと考えている。その際、スケジュール的に今の指標を若干見直しながらかつていくことがいいという議論となればそういう形もあると思う。今のところは現在のスケジュール案として3年かけていくと考えている。

副会長／実質的な数量の評価ではなく質的な評価ができないかと委員会で意見したところである。当面の2館体制の中で質的評価を模索していくことは大賛成である。

サービスを行うことは予算にも関わってくるものであり、こんなサービスがあったらいいのではないか、こういうサービスが弱かったから付け加えてはというような、仮に提案となったときに、こういうサービスをどこまでやるかという次の目標値が出てくると思う。そのような新しいサービスについても検討の余地があるのか、そうではなく全く今まで行ってきた数量的な評価を土台にしながら現在のサービスを評価として見直すのか、新しいサービスといったときに付いてくるのはお金のことであり、この辺も協議できる余地があるのかどうか。

事務局／現在の評価は3館のものである。今回見直しをした上で、さらに新図書館がより現実的になった時点で第2回目の見直しが当然あると思う。これをいっぺんにやって最終指標とする感覚は持っていない。当面は2館体制でのサービス指標を考えていただきながら、そこに新図書館に向けたことが盛り込めないだろうか、ちょっと欲張った考えでいる。具体的には2月に他県の事例なども御紹介してもう一度お話をいただければと思っている。

会 長／図書館の再編などについてはサービスを担当している図書館が事務局ではなく、教育局市町村支援部のほうが事務局である。図書館サービスの評価そのものは、これは図書館が実際にやっているサービスに対

しての評価となるので、ちょっと別物となる。これは組織の問題でもありちょっとわかりにくいと思う。

ちょっとお願いがあるのだが、来年の4月1日以降、熊谷図書館と久喜図書館の2館体制しかできないという形になるので、それに向けてどういうふうに県民に対してサービスをしていかなければならないか、これは当然図書館内部でいろいろお考えのことと思う。それに対して協議会として評価していきたいと思うので、それをまず目標にしてはどうか。そのへんで、こういうふうに考えているということ、次回が指標に対する意見交換となっているので、それをちょっと整理していただきたい。

それを受けてサービス評価の小委員会として、新しい指標を含めて、これを27年度の事業について評価ができる形で、評価小委員会で1回まとめていただく。混乱するかもしれないが、それを踏まえて、再度の見直しは28年度。それと並行して新図書館なり将来構想というものが市町村支援部の方でまとまってくるということを期待して。その辺移行するために何をやっていかなければならないということが図書館内部で協議しなければならぬと思う。それを踏まえた形での新指標というものを作っていただく形になる。それが、新図書館が早くできることの後押しになれば一番うれしいと思う。それが協議会としての役割かもしれない。

協議会の総意として図書館をお願いしたい。

委員／2館でなくては難しいという中で、27年5月15日まで久喜が休館で、4月1日からは浦和がないということは県民の理解を得ることが難しいのではないか。

副参事／2館体制がしっかりできるまでには、熊谷あるいは久喜1館しか開館していない状態となる場合がある。

事務局／2館体制とは来年度がうまく運んだ結果としての2館体制である。その間には1館となっている時期や本が使えない時期も出てくると思う。極力それがないようにしたいところだが、時期的にはかなり県民サービスで御不便をかける場合があり、しっかりとPRしていきたい。

会長／久喜が休館の間、職員は勤務しているのか。相互貸借のようなものは可能か。

事務局／職員は勤務しており可能である。県民サービスを低下させないように、3館で協議していく。休館中のサービスについては後ほど示したい。

会長／市町村を通じて本が借りられるということをPRしてほしい。

県立にしかない郷土資料については、優先的に使えるような形にしてほしい。休館になるということを図書館協会を通じて各市町村の図書

館や大学の図書館などに細かい説明をしてほしい。

事務局／いろいろな場で説明して参りたい。

委員／浦和がなくなるということだが、資料費予算は1館分減るのか。また、浦和の資料はいつ頃までに移行され使えるようになるのか。

副参事／資料購入費については今年度並みの予算をできるだけ確保したいと思っている。3館が2館になるからといって予算が3分の2になるとは考えていない。図書の利用については現実的には8月から12月ぐらいがメインの運搬の時期となると考えているので、この時期はかなり貸出が難しくなる可能性がある。その中で使用頻度の高いものは、利用できない期間を極力短くしていきたいと考えている。選択は難しいが、あまり借りられない本は後回しにして、借りられやすい本はできるだけ短くしたい。

委員／最終的には1年くらいかかるのか。

副参事／すべて完璧になるのは27年度いっぱいにかかると思う。全部使えない時期はできるだけ短くしたいと考えている。

イ 次回、第3回の協議会は、来年2月久喜で開催する予定

〔熊谷図書館 伊藤教育主幹〕

議事終了

8 閉会

〔熊谷図書館 伊藤教育主幹〕

会議録署名

会 長 _____ 印

委 員 _____ 印

委 員 _____ 印